

2018年1月30日掲載

「ムーミンが教えてくれたこと」

今年の大学入試センター試験地理Bの北欧3国に関する問題で、「ムーミン」が出題され大きなニュースになった。ムーミンとフィンランドを組み合わせる問題で、学生からは「ムーミンを知らないと解けない」という声が多かったという。舞台はスウェーデンではないのか、という議論も飛び交っている。

「経済は地理から学べ！」の著者で代々木ゼミナール地理講師の宮路秀作さんに聞いたところ、問題を「小さなバイキングビッケ」から解く考え方を教えてくれた。

「バイキングは船を用いてさまざまな国に出かけていた。船には木材が必要で、停泊には波穏やかな内湾がよく、フィヨルドがみられる国が考えられる。そこからノルウェーが導き出せるのでは」との見解だ。ムーミンを知っている、知らないだけだと、そもそもアニメの問題になってしまう。

宮路さんはさらに「こんなの授業で習っていない、という事態に陥った時点で、思考を終了させてしまう」ことに問題があるとも指摘している。

私も大学生などに地理を教えており、今回の件を通して「思考力」について改めて考えさせられた。以前、「AIの登場で10～20年後には約半数の職業がなくなる」という論文が発表されて話題になった。今後さらに社会が大きく変化することが予測され、それを乗り越えるためには、自分で考え行動する力がより必要だ。賛否両論ある中で、ムーミンの問題は、今後の教育のあり方を考える機会になったことは間違いないだろう。

(毎日新聞より)